

補足 膵炎・膵外分泌機能不全

臨床症状・検査所見

〈膵炎〉

(1) 臨床症状¹⁾

腹痛、背部痛、全身倦怠感、黄疸など
(無症候性の場合もある)

(2) 臨床検査所見¹⁾

血中膵酵素、肝胆道系酵素、総ビリルビンの上昇

(3) 画像検査所見¹⁾

膵腫大

〈膵外分泌機能不全〉

(1) 臨床症状^{2,3)}

脂肪便、下痢、体重減少、腹部膨満感など

(2) 臨床検査所見^{2,3)}

- 膵外分泌機能検査
便中エラスターゼ1* : 200ug/g 以下*本邦保険未収載
BT-PABA 試験(PFD 試験) : 70% 未満

- 膵酵素正常又は低下

他の原因(大腸炎、膵炎、膵転移、膵管狭窄など)との鑑別のため、磁気共鳴胆管膵管造影(MRCP)や内視鏡などの画像検査も重要です。

参考文献

- 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班・日本膵臓学会. 自己免疫性膵炎診療ガイドライン2020
- 中村光男 編. 膵外分泌不全診療マニュアル. 診断と治療社(2017)
- Satish D. et al.: *Oncologist*. 28: 1085, 2023

ガイドライン等による対処法の補足 (対処法はP.29参照)

- 副腎皮質ホルモン剤の長期投与が必要な患者に対し、日和見感染予防が必要であるとASCOガイドライン¹⁾に記載されています。
- 膵外分泌機能不全では、一般的に膵消化酵素薬補充療法が使用されています²⁾。
免疫反応に起因する膵外分泌機能不全に対しても、膵消化酵素薬補充療法により改善が認められた報告があります³⁾。

参考文献

- Schneider BJ. et al.: *J Clin Oncol*. 39: 4073, 2021
- 中村光男 編. 膵外分泌不全診療マニュアル. 診断と治療社(2017)
- Satish D. et al.: *Oncologist*. 28: 1085, 2023